

総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成27年3月13日 午後1時
- 2 閉 会 平成27年3月13日 午後2時17分
- 3 場 所 総社市保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員
出席委員
委員長 林 直 人
委員長職務代理者 米 谷 正 造
委 員 小鍛治 一 圭
委 員 下 山 洋 子
委 員 三 宅 眞砂子
委 員 (教育長) 山 中 榮 輔
- 5 会議に出席した者
教育次長 矢 吹 政 行
参事兼庶務課長 三 村 和 久
学校教育課長 東 長 典
生涯学習課長 佐 近 昇
文化課長 谷 山 雅 彦
庶務課課長補佐 富 森 賢 一
- 6 会議録署名委員
小鍛治 一 圭 下 山 洋 子
- 7 付議事件
議案第6号 総社市スポーツ振興表彰（藤岡郁海賞）について 原案可決
議案第7号 平成26年度末 校長・教員等の人事異動について 原案可決
- 8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後1時

林委員長 ただいまから教育委員会を開会いたします。

この教育委員会には、議案2件が付議されております。

なお、議案第7号については、人事案件であり、議事の都合により、報告事項の後に審議したいと思います。

では、会議録の署名委員についてであります。

会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、小鍛治委員、下山委員の2名をお願いします。

林委員長 では、まず、議案第6号「総社市スポーツ振興表彰（藤岡郁海賞）について」事務局から説明願います。

佐近生涯学習課長 【事務局説明】

林委員長 ただいま事務局から説明がありました議案第6号について質問はありませんか。

【質疑・答弁】

米谷委員 質問ではないんですが、これだけたくさんの方が老若男女、種目も多岐に渡って表彰されるということは非常に喜ばしいことだと思います。生涯スポーツの普及やこれから総社市のスポーツ振興に繋がることになるんじゃないかなと思います。

林委員長 名前が挙がってきた方は、どういう形で募ったんですか。

佐近生涯学習課長 生涯学習課の方でいろいろ調べてリストアップします。それ以外にもいらっしゃるかも分からないので、審査会構成メンバーの方に送らせていただき、それぞれ推薦していただいたものもあります。その中から選ばせていただいております。

林委員長 では、もっとたくさんの方が候補に挙がってきていたということですか。

佐近生涯学習課長 はい。予算の限りもありましたので、事務局の方で案を出させていただったりしながら、決めさせていただきました。

林委員長 他にどうでしょうか。さつき賞との重なりはないんですよね。

山中教育長 重なっていないと思います。

林委員長 お諮りいたします。

議案第6号について可決してよろしいか。

(異議ないとき)

林委員長 ご異議がないようですので、議案第6号については可決しました。

林委員長 次に、教育長の報告をお願いします。

【教育長報告】

山中教育長 2月22日に行われましたきびじマラソンではいろいろお世話になり、ありがとうございました。2月27日に、県大と市が連携協定を結んで交流会、オリエンテーションを行いました。本年度、来年度何をやるかという、県大側と市側で情報交換を行いました。

この情報交換の中で県大は、総社市を含めたこの地域に貢献するということが大きなテーマであるというような、そういう発言が学長の方からありました。

それから、同じ27日に、昭和・維新地区の5つ星学園全体での合同職員会議というのがあり、この中で今年度の活動内容の報告と反省会があったのですが、それに出席させていただきました。印象として、先生方に非常に一体感が生まれてきております。小中の交流とか、地元の人と一緒にいろんな研修に行くとか、なかなかいい雰囲気になってきたなと感じています。

それから、ご承知のように、議会が3月2日から20日まで開催されます。内容は、次長の方から報告していただきます。

それから、昨日から今日にかけて、青山学院大学の木村教授が来られました。この先生は英語の専門家で、ラジオの英語基礎講座をずっとやっておられます。青山学院英語教育センター所長を務められており、今、我々がやろうとしている英語教育についてもいろいろご指導をいただいております。実際、昭和中においてALTの人を見ていただき、直接ALTと何が課題かというのを話していただいております。今日は昭和小に行っていました。

今度、大学のセンター試験が変わって新しい方式になるんですけども、その英語の読む、聞く、話す、書くという4つの機能を評価しないといけないんですけど、話すを評価するノウハウがないので、評価方法の開発が非常に活発に動いているということだそうです。何で評価するというのは大学が決めるんですけども、決めなかったら、文科省から指導が入るといった状況のようです。最初に言われたのは、上智大学と、日本英語検定協会がタイアップして、TEAPという試験方式、これはヒアリングとスピーキングを定量化できる。10分程度のヒアリング、スピーキングで評価するシステムを作ってるんです。これを来年度から入れるということで、塾とかいろんな学校以外の受験用の施設が乗り遅れまいと、統廃合が進むんじゃないか、そういう話もいろいろ伺いました。我々が進む方向を決める時に、必要な情報をかなり持っておられます。英語の授業の指導だけでなく、そういった様々な情報を教えていただくことでも交流を図っていきたいと思いました。

林委員長 次に、「3月議会の中間報告について」事務局から説明願います。

矢吹教育次長 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対する質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

米谷委員 5校園全ての教職員の方と地域の方も入って一緒に行われたのですか。

山中教育長 今回は職員会議でしたが、年に2回、全体で集まる会があります。その時は職員は代表が集まります。それから、他市の教育状況視察も、普通は先生だけで行うんですけど、地域の方と一緒にというのがちょっと画期的ですね。

林委員長 次に、報告事項に移ります。

では、まず、「スクールバスの運行について及び英語特区の現況について」事務局から説

明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対する質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

林委員長 スクールバスのことについてどうでしょうか。非常に人数がすごい増えているので、結局、親が英語を子供達に学ばせてやりたいという風なことだと思いますが、将来的にはどういう子供のビジョンというのを描いていらっしゃるのですか。

東学校教育課長 当然、英語教育ということに惹かれて入られる方なんですけれども、やはり、それに加えてもっと人数が少ないゆったりした中で、なおかつ先進的な教育が受けられるということで、希望されている方が多いという風に受け止めています。中には、集団生活が苦手かなと思われるお子さんも含まれるというのもあるんですが、英語の教育によって使える英語を身に付けていく、通常の今の学習指導要領のことだけではなくて、使える英語を身につけさせたいという願いが強いんじゃないかと思っています。

米谷委員 希望される方の地域の特徴とかあるんですか。情報の伝え方が違っていくと思います。口コミとかいろんな要因があると思うんですが。

東学校教育課長 地域としては、やはり総社西中学校区、総社東中学校区、そこから行かれる方がやはり多数という形になっております。口コミでの広がりがあると思いますし、オープンスクールを今年度たくさんやりました。昭和小学校は年間8回も実施しています。少ないところでも3、4回実施していますので、そういう所に熱心に足を運ばれる方々がおられますし、そんな中で、実際に現場を見て決心されるという方がおられるという風に聞いております。

小鍛治委員 元からおられた方の保護者とか地元の方の反応とか、例えば苦情があったりとか、困ったことがあったりとかはあるんでしょうか。

東学校教育課長 地元の方については、おおむね好評といたしますが、それによるネガティブな反応はほぼないと思っています。ただ、震災の関係で、関東地域からこちらに移住してきている方の中に、せつかくのんびりとした良い所だという風なことが入ってきたけれども、ちょっと賑やかになり過ぎるのは逆にどうかなという意見があります。それから、数値目標じゃないですけども、成果を求めてガツガツやるような教育になり過ぎても、そっちに走り過ぎてちょっと気になるなという、そういう声もごく一部ですがあります。

下山委員 ちょっと噂に聞きますと、PTA活動の規約などを変えていかないといけないなということを地域の方が言われていて、やはりPTAも月毎に会計を出すとか、子供会はどうするのかとかいう、PTA関係でちょっと話を進めているようなことも聞きました。

それから先ほど質問にあった、親がどういうビジョンを持って行かせるかというのもあったんですけど、私の知り合いの知り合いのところは、子供が学校で聞いてきて、僕は中学に行く時に昭和中に行きたいんだという子供の希望で行かすようなところもあるから、学校で

もいろいろ説明をして下さっているんだなということをその時に感じました。

それから転校した場合とか入った場合に、特別支援に関わる子供達もいるということで、維新なんか特別支援学級ないし、昭和も情緒がなくなったし、そういう関係では今のところ困ることはないんですか。

東学校教育課長 まずPTAの関係ですが、確かに影響がだんだん出てくると思います。昭和小学校については来年度22人、区域外から入られます。全校児童116人中22人ですから、2割弱ぐらいの方が入られるので、必要に応じてこちらも何か策をとらないといけないかもしれません。

それから通学のことですね。結局スクールバスより、高学年の子供がいるので、「電車で通おう。総社駅の辺りから。」そういうグループが一団体できているので、そういう通学班についても、1区2区とかいうのが昭和小ありますけども、それに新たに区をつける、加えていくような、そういう風な対応に迫られると思います。

それから特別支援につきましては、昭和小学校につきまして、自閉情緒の学級が増える方向になっています。対象のお子さんも増えましたし、様々な状況からして特別支援学級で対応すべきだろうという子もおりますので、知的のクラスと自閉情緒のクラスが2つできます。定員も増えたような形で、対応はできると思っております。

林委員長 5つ星学園構想の中で、地域との連携という風なところで、そういう風に学区外から来た方とどのように連携をして経営をしていくのかというのは、新たな経営手腕が問われるんじゃないかという感じがしますけどね。でもまあ、当初の人数を増やして活性化しようという目論み通りになっていると思います。成果も上がっているんじゃないかと思います。ありがとうございます。

下山委員 先ほどの議会のところの学校関係の質問の、学校での体罰とか健康についてということで質問があったり、これからこれは答弁されるんですか。

矢吹教育次長 もうお答えいただきました。

下山委員 そのお答えを聞きたいと思ったのと、後で思い出したのが、今朝の新聞にありました、岡山県、香川県も入っていましたが、体罰について教委の所に脅迫状が届いて、チャラにするから300万円とか言ってというような内容だったんですけど、その時のお答えについてちょっとお聞きしたいというか、今の現状を知りたいなと思っています。

山中教育長 体罰は、平成25年の3月に文科省が調べた時に、注意をしたのは1件です。それ以外は報告を挙げているんですけど、体罰と言えるかどうか定義が明確でないのです。かなりレベル差があります。それ以降は出ていないという説明をしました。

それからもう一つ、根馬議員から例の川崎の事件のような子はいないのかという質問がありました。もう調査は終わっております、総社の場合はゼロです。今回のケースを見ますと、やはり周りの大人が気づいていたにも関わらずアクションを取っていないということなんです。総社市の場合は、きちっとやっていると説明をしました。20年間かけて、このい

じめ対策をずっと続けてやってきていて、小冊子も、去年に第4版を出して、これにはスマホ教育も追加しました。それから不登校も減っています。それ以外に、補導検挙の件数が平成24年、25年では半分以下になっている。急速に減ってきているのが総社の特徴です。一部の人は去年、交通の取り締まりを徹底的にやったからと言うんですけど、少し違うと思います。中学生の非行や、法に触れそうなものを補導するというのは減ってきています。これは、子どもの社会性を育む教育「誰もが行きたくなる学校づくり」等の諸活動の成果だと思います。このような活動をきちっと続けていけば、更に成果が上がっていくんじゃないかという風に答えました。

下山委員 先生達の健康状態はどうか。

山中教育長 先生方の健康状態ですが、比率が少し上がってきています。平成15、16年ぐらいから高止まりなんですけど、総社市の比率が少し高い。これは、病気の方や精神的に病んでいる方の比率が高いということです。小規模校とか大規模校に関係なくありますから、学校の環境になかなか馴染めないというところからきている。今考えていますのは、学校全体が非常に忙しいですから、仕事をどういう風に簡素化していくかということです。いろんな方法があるんですけど、仕事を省略する方法と、それから効率的にやる方法と、もう一つは権限委譲の方法があります。やったりとったりするという伝達要素を少なくするというのをやっていかないといけない。それで、教育委員会の学校教育課の中でも、誰もが早く帰る活動、「誰早プロジェクト」をやっています。それで、いろんな手を打って少しはよくなっている。そういう意識でやるのが大事です。もう一つ申し上げたのは、先生方は長く居ることが美德だという価値観を壊さないといけない。そこからやりましょうと申しました。一般社会ではただただやっているのは効率が悪いですから、それは駄目なので、いかにして短期間でうまくやるかという工夫をする。そのためには組織的な動きと、マネジメントをもう少しやらないと駄目です。一括交付金、きらめき交付金もそうです。自分達で考えてアクションをする。英語特区の五つ星学園は年に2回は全体で飲み会をするのですが、非常にしんどいけれども先生方は元気です。精神的なストレスがすごく緩和されるんだと思います。自分達でやれるということで。本当に負荷がすごく高いと思うんですけど。これは、他の市でもそういう例がありまして、前に春日市という所に行かせてもらったんですけど、そこは10年かけて予算執行権と学校に権限委譲をやりました。負荷は一緒なんですけれども、周辺の市よりもうんと先生方のストレスは少ない。だから、メンタル、心の持ち方というものも一緒にやっていかないとなかなかうまくいかないと思います。

下山委員 分かりました。

米谷委員 関連して、例えば有給取得なんか、そういうのはちゃんと取らないといけない。張り詰めたままですと疲れます。なかなか取れない状況かなとも思いますが。

山中教育長 有給休暇を取れと言うだけでは、なかなか取れない。具体的に、部活は土日必ず一日休む。遠征に行ったらその分減らす。水曜日は部活休止の日にする。そういうことを

徹底していくことだと思います。今までは、県の教育委員会もそうですし、市も一般論なんです。ちゃんと有給取りなさいと言っても、いくら言っても取らないのは、取れない状況にある。何故取れないか、どうして取れないかというのをやっぱり考えていかないといけない。そういうことをやろうと思うと、校長会との連携が重要です。それからもう一つ言いますと、校長会がOKしてもなかなか先生方に伝わっていかない。校長に権限がない。人事権と予算権がなかったら言うことを聞きません。人間関係だけでやろうとして、組織として動いていないから、それもだめです。だから、組織として動くようにするということがすごく大事です。そういうことを始めているのは、校長会と連携してできるだけ権限委譲をしようということと、先生方も「誰行き」の推進会のように、自分達で決めて、そこへ我々が予算をつける、執行までやるという風にしていかないと、良くならないと思います。だから、全体を見てやらないと個別の対応では駄目だと思っています。

林委員長 次に、「学校評議員・学校関係者評価委員委嘱事務の校長への委任について」事務局から説明願います。

東学校教育課長 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対する質問等はありませんか。

東学校教育課長 関連して、今年度のまとめとして、学校評価書という形で各校園がまとめて提出して下さっています。一年前ぐらいにもお願いをしたのですが、ご一読いただきまして、可能な範囲で来週の教育委員会でご指導、コメントをいただきまして、各校や幼稚園にも伝えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

林委員長 他に報告事項はありませんか。

東学校教育課長 【教職員の不適切な指導について報告した。】

佐近生涯学習課長 【総社市スポーツ振興表彰式の案内をした。】

林委員長 では、今回の教育委員会の日程についてであります。既に通知しておりますとおり、3月20日午後4時00分から開催いたしますので、ご参集願います。

【事務局より4月の教育委員会の日程変更の提案があり、調整を行った】

それでは、4月の教育委員会については、4月28日の9時からということで計画をしていただけたらと思います。よろしく申し上げます。

林委員長 次に、人事案件であります議案第7号「平成26年度末校長・教員等の人事異動について」の審議に入ります。

本件については、議案の性質上、非公開としたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議ないとき)

林委員長 ご異議がないようですので、本件の審議は非公開といたします。

関係職員以外は退席願います。

【生涯学習課長・文化課長退席】

林委員長 では、議案第7号「平成26年度末校長・教員等の人事異動について」事務局

から説明願います。

【非公開審議】

林委員長 お諮りいたします。

議案第7号について可決してよろしいか。

(異議ないとき)

林委員長 ご異議がないようですので、議案第7号については可決しました。

これで、審議がすべて終了いたしました。

以上で、本日の教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後2時17分